

“ふるさとちば”のための政策推進を



大野まことと県議会レポート

発行/自由民主党千葉県議会議員会 〒260-0855 千葉市中央区市場町2番13号 電話 043 (227) 7411

地域の声を県政に届けます

県政に新風を 夢ある印旛郡の未来

印旛郡特集 6月県議会一般質問



県議会本会議場で堂本知事と論戦する大野眞議員

究極の地方分権道州制着手へ

県政に新風を―と、昨年四月の県議選・印旛郡選挙区から県政界へ進出した大野眞(おおの・まこと)県議は、豊富な行政経験を生かして早くも三度目の一般質問に登壇しました。大野議員は、四街道市職員から栄町町議会議員、栄町町長と地方行政には豊かな経験と見

識を持っており、地方分権と道州制の問題を取り上げ、堂本知事の見解をたずねました。

大野議員は、財源措置に伴う北総鉄道の高運賃問題では、論戦こそ自民党の代表質問に譲つたものの、解決を目指すにはこの一年から半年が勝負だ

―とし、知事に対し、関係市町村や鉄道事業者との協議で、抜本的な解決策を探るよう強く要望しました。主な質疑を1、2面で特集します。

行政経験生かして論戦

民俗芸能発表の場を

大野議員 県は、無形文化財、民俗芸能の継承のために、どんな事業を考えているのか。

県教育長 無形民俗文化財は、地域の歴史や伝統文化を後世に伝えていく大切なものであり、県教委は、民俗芸能の公開事業である「房総の郷土芸能」の開催や民俗芸能を映像として記録し、次世代へ引き継ぐための事業に取り組んでいます。

特に、「房総の郷土芸能」は、発表の場を設けることで担い手の意欲を高め、その魅力を広く県民に紹介することを目的としており、今年には栄町で実施いたします。

大野議員 政府の道州制ビジョン懇談会や自民党道州制推進本部の提言を、知事はどう受け止めているのか。

堂本知事 道州制を導入することは「国のかたち」を変えることと、検討に当たっては「目指すべき国家像」の明確化と共有化が必要です。道州制により国民の暮らしがどう変わるのか、分かりやすく示さなければなりません。そして、「真の地方分権型社会」の構築につながるものでなければなりません。そのためにも、地方の視点を十分踏まえながら検討すべきですが、懇談会や自民党の検討は、地方が十分参画できるシステムになっていません。

これらの案は、概ね十年後までに導入を目指す」と期限を示していますが、基礎自治体が再編され、必要な行政能力を整えていく期間を考慮すると、二〇一七年までの導入は困難と思えます。

大野まこと県議 PROFILE

略歴

- 昭和33年4月 印旛郡栄町生まれ
- 昭和58年3月 専修大学法学部卒
- 昭和60年4月 四街道市役所勤務
- 平成9年1月 栄町議会議員初当選
- 平成12年3月 栄町町長選に初当選(1期)
- 平成19年4月 県議会議員初当選

現職

- 県議会 県土整備常任委員会委員
- 県議会 議会運営委員会委員
- 県議会 あり方検討委員会委員
- 自民党県連 政務調査会審議委員
- 自民党県連 政務調査会空港対策特別委員会委員
- 自民党県連 青年局常任理事
- 千葉県 環境審議会委員
- 行政書士

要望 文化財保護行政について、要望します。獅子舞などを伝承している地域では、後継者不足の問題もあるので、民俗芸能を広め、公開する機会を設けていただきたい。文化財がある場所では、盗掘されたり、廃棄物が捨てられたりするので、廃棄物もあるので、文化財保護の問題もあるので、文化財保護の観点からも文化財の購入や保存整備について、市町村を下支えする意味で、県からの補助継続を考えていただきたい。

県政や印旛郡のご相談、ご意見を聞かせてください

大野まこと事務所

〒270-1516 印旛郡栄町安食2357-82
TEL0476-95-1391
FAX0476-95-6064

運賃問題解決に最大限の努力

印旛郡特集 6月県議会一般質問

北総鉄道

要望

成田新高速鉄道と北総鉄道に
ついてですが、わが党として
公明党の代表質問で取り上げていた
だき、知事の答弁、また副知事の答
弁により、その意思を確認するこ
とができました。ひとつこの姿勢を貫
いていただきたいと思えます。

成田新高速鉄道開通まで約二年に
なりますが、この運賃問題が解決す
る、また、目途をつけなければいけ
ないのは一年、いや半年が勝負だ
と思えます。そういう意味では、県
局として市町村、事業者と連絡を取
り合せて、また、我々も協力させて
いただきますので、ぜひ力強く推進
していただきたいと思えます。よろ
しくお願いいたします。



北総鉄道の運賃問題について国土交通省に陳情
(左から北村鉄道局長、実川代議員、
大野県議、米田都市鉄道課長)

大野議員らの働きかけにより、自民党の代表質問
で懸案の北総鉄道の運賃問題が取り上げられました。
代表質問 県と沿線六市二村とで行っている勉強会
を今後、どう進めるのか。
副知事 今年度から新たに鉄道事業者である北総鉄
道、開発事業である県企業庁と都市再生機構をメン
バーに加え、勉強会を開きました。

勉強会では、北総線運賃問題対策協議会の運賃値
下げ等に関する考え方について、会長市である印西
市から説明を受けました。

今後とも、勉強会で運賃値下げの方策や運賃問題
を検討するの重要な課題である利用促進策等につ
いて検討してまいります。

今後、この勉強会での議論を十分行っていくこと
を含め、県として問題解決に向けて最大限の努力を
していきたいと思っております。

ふるさと印旛のために全力
地方行政の
エキスパート

おおおの
大野まこと
眞
県議

酒々井インターチェンジ

今年度本体工事に着手

印旛村岩戸地先バイパス

用地買収79%・工事42%

大野議員 県道八千代宗像
線、印旛村岩戸地先のバイ
パス整備の進捗状況と今後
の見通しはどうか。

県土整備部長 八千代市保
品から印旛村岩戸地先に至
る延長約4・7キロのバイ
パス整備は、これまでに用
地買収や新阿宗橋などの工
事を進めてきたところです。

平成十九年度末の進捗状
況は、用地で約79%、工事
で約42%となっています。
引き続き事業推進を図り、
八千代市側約1・4キロは、
平成二十二年度末の供用を
目指すとともに、印旛村側
についても順次供用したい
と考えています。

本笠バイパス4・5キロ

用地買収83%・工事40%

大野議員 県道鎌ヶ谷本笠
線本笠バイパスの進捗状況

平成22年度末完成目標

大野議員 仮称・酒々井イ
ンターチェンジ(ICC)の
用地買収状況と今後の事業
見通しはどうか。

県土整備部長 仮称・酒々
井インターチェンジの用地
買収率は、平成二十年五月
末で約42%となっています。
今年度は、残りの用地買収
を進めるとともに、インタ
ーチェンジ本体の工事等に
着手する予定としています。

と今後の
見通しは
どうか。

県土整備
部長 県
道鎌ヶ谷
本笠線の
印旛村萩
原から栄
町安食ま
での本笠
バイパス
延長約4
・5キロの整備は、平成八
年度から事業着手し、平成
十九年度末の進捗状況は、
用地で約83%、工事で約
40%となっています。
今年度は、比較的用地買



八ツ場ダム現地調査に訪れた大野 眞県議

取が進んでいる印旛村側の
残る用地買収や盛土工事を
重点的に進め、早期に部分
供用が図られるよう努めて
まいります。

市町村は、県
道の完成を見込
んで、さまざま計画を
立てているので、完成
目標を示し、早期完成
をぜひともお願いした
い。

財源不足への懸念を表明

6月定例県議会で最大会派の自民党からは皆川輝夫議員
(鎌ヶ谷市選出、四期目)が代表質問に登壇しました。
皆川議員は、財政問題を第一に取り上げ、本年度は当初
予算段階でも百四十五億円もの財源不足のうえ、原油価格
の高騰や幅広い物価の値上がりで日本経済に暗い影を落と
しているなかで、今後予定した税収さえ確保できないので
はないかとの懸念から厳しい財政運営を質しました。
また、羽田空港の国際化問題での知事の姿勢を厳しく質
すとともに、成田新高速鉄道の開通に伴う北総鉄道との運
賃格差問題や特急待ちによる利便性の低下などを指摘し、
県当局の取り組みを求めました。

今後とも、地元関係者の
協力を得ながら、東日本高
速道路株式会社や酒々井町
等の関係機関と連携を図り、
平成二十二年度末の完成目
標に向け、事業推進に努め
てまいります。